

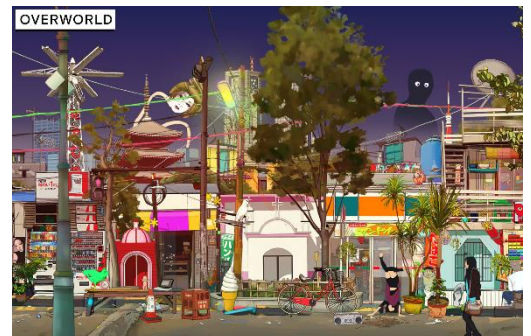
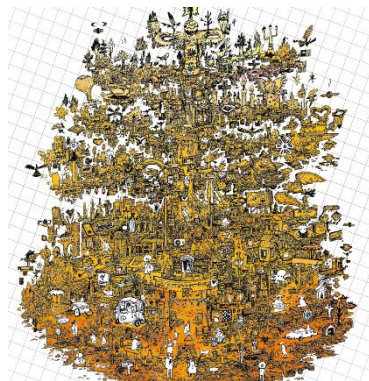
メキシコと日本をつなぐオンライン展「Overworld」が開幕

～日墨のアーティスト、建築家 15 名が両国の都市、建築、ライフスタイルを切り取る～

国際交流基金メキシコ日本文化センターは、12 月 11 日（金）17 時、メキシコと日本の都市をテーマとしたオンライン・エキシビション「Overworld」の日本語版を公開します。

新型コロナウイルスの世界的な流行を受けて人々の移動が制限されるなか、これまで通りの国際文化交流が難しくなっています。コロナ時代における全く新しい創作活動や文化交流のかたち、アートの可能性を模索する中で、日墨のアーティストが物理的距離を超えてインターネットを通じた相互交流を重ね、約 4 か月にわたって共同制作しました。スマホやパソコンからバーチャル空間に出現したこの展示スペースを訪れることで、アーティストの心象風景として再構築された日本とメキシコの都市を自由に旅ができるという新たな都市体験のかたちを提示します。

京都でアーバンリスト・イン・レジデンス・プログラムを主宰する「Bridge to Kyoto」と、メキシコシティに拠点を置くキュレーション・プラットフォーム「Proyector」をキュレーターに迎え、日墨両国のアーティスト、建築家、イラストレーターら総勢 15 名が参加します。両国の都市、建築、ライフスタイルを切り取る 5 つのテーマを「島」にみたて、写真、テキスト、アニメーション、イラストなどさまざまな表現方法でその風景をオンライン上の架空の地図に再構築する試みです。日本語、英語、スペイン語の 3 か国語対応で、ウェブ上で無料鑑賞できます。2021 年 11 月末日まで約 1 年間、オンライン上で公開予定です（エキシビション URL： <https://www.overworld.mx>）。



この事業は、コロナ禍における国際文化交流と表現創作活動の新たな可能性を探る取組でもあります。インターネットを介した新しいテクノロジーによって、物質的空間に囚われないグローバルなコミュニケーションが可能になった現代。デジタルがデフォルトとなる世界で、私たちはどのように地理的・文化的・社会的共通点や相違点を読み解き、対話し、創造できるのでしょうか？ 今回のエキシビションは、メキシコでも日本でもない架空の地理をオンライン上に生み出すことで、両国の地理的な距離や偏見、言語の壁を越えて、両国の才能が自由に交流し、表現できる土壌をつくりました。

エキシビションでは「Dwelling（住まう）」「Working（働く）」「Eating（食べる）」「Moving（移動する）」「Gathering（集う）」という都市や空間、ライフスタイルにまつわる 5 つのテーマをそれぞれ「島」にみたて「都市の群島」と呼んでいます。バーチャル上の展示スペースである各島には、メキシコと日本からそれぞれ 1 名ずつ建築家、芸術家、デザイナーが参加し、チームで展示内容を組み立ててもらいました。島では視覚・聴覚だけでなく、鑑賞者自身がブラウザー上でマウス操作することでインタラクティブに展示作品が表示されたり、画面が切り替わったりする仕組みが施されており、空間的な広がりをもった架空の都市を体験できる展示デザインとなっています。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

日本からは、「HELLO GARDEN」「西千葉工作室」の運営を行う西山芽衣氏、大阪・此花区を拠点に建築をベースとした幅広い活動を展開する「NO ARCHITECTS」、京都在住のアニメーター、ジョナサン・ハガード氏、メキシコシティ在住の日本人建築家・デザイナーの今川玲奈氏、アメリカ出身で日本在住のアーティスト・文筆家であるキース・スペンサー氏の5名が集結。写真、テキスト、アニメーション、絵画等さまざまな媒体を通して、テーマ毎に各人の活動を表現します。イラストレーターには、日本から中村杏子氏、篠崎理一郎氏が参加します。

記

事業名称 : Overworld (邦題: オーバーワールド、スペイン語題: Ultramundos)
主催 : 国際交流基金メキシコ日本文化センター (メキシコシティ)
開催日程 : 2020年12月11日(金)～2021年11月30日(火)
※11月13日(金) 英語、スペイン語版公開
会場 : オンライン <https://www.overworld.mx>

キュレーション : Bridge to Kyoto (杉田真理子)、Projector (Tania Tovar、Juan Carlos Espinosa)

協力 : Arquine (メディアパートナー)

主な内容 : メキシコと日本の都市をテーマとして、両国のアーティスト、建築家、イラストレーター総勢15名が参加するオンライン・エキシビション。京都でアーバンリスト・イン・レジデンス・プログラムを主宰する「Bridge to Kyoto」と、メキシコシティに拠点を置くキュレーション・プラットフォーム「Projector」をキュレーターに迎えます。両国の都市、建築、ライフスタイルを5つのテーマ「住まう」「働く」「食べる」「移動する」「集う」のもとに、写真、テキスト、アニメーション、イラストなどさまざまな表現方法でその風景をオンライン上の架空の地図に再構築する試みです。日本語、英語、スペイン語の3か国語対応。2021年11月末までウェブ(<https://www.overworld.mx>)上で無料鑑賞できます。



PROYECTOR

Arquine

以上

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当 : 熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

ULTRAMUNDOS OVERWORLD オーバーワールド

DECEMBER 11 | 2020 | WWW.OVERWORLD.MX

PRESENTED BY
ERIKA LOANA
MÓNICA GARCÍA
KEITH SPENCER

<<< MOVING ISLAND >>>

<<< ISLA DEL MOVIMIENTO >>>

<<< 移動する島 >>>

PRESENTED BY

NO ARCHITECTS

KYOKO NAKAMURA

ZAICKZ MOZ

<<< 働く島 >>>

<<< WORKING ISLAND >>>

REINA IMAGAWA

ALAN RODRÍGUEZ

LANZA ATELIER

<<< ISLA DEL ENCUENTRO >>>

<<< GATHERING ISLAND >>>

PRESENTED BY

ADRIANA DAVID

KAREN AGUILAR

MEI NISHIYAMA

<<< EATING ISLAND >>>

<<< ISLA DEL TRABAJO >>>

<<< ISLA DE LA COMIDA >>>

<<< 食べる島 >>>

PRESENTED BY

ANDRÉS SOUTO

RIICHIRO SHINOZAKI

JONATHAN HAGARD

<<< 住む島 >>>

<<< DWELLING ISLAND >>>

<<< ISLA DEL HABITAR >>>

ORGANIZED BY



IN COLLABORATION WITH

bridgeto kyoto



PROYECTOR



MEDIA PARTNER

Arquine

ULTRAMUNDOS

OVERWORLD

オーバーワールド

OVERWORLD

現代における「都市体験」とは、その対象となる「場所」そのものだけでなく、そこに幾重にも焼き付けられた情報やテクノロジーの層を通じてのみ得られる。さらにそこに関わる人や物、そこで繰り広げられる人々の行為が組みあわさることによって初めて、個人的な体験や共同体共通の出来事として意義を持ちはじめ、人々の心に記憶される。個人のおかれた境遇や物質的な景観、公共空間というものがあいまって生じるこうした複合的な世界認識は、都市空間や個人のアイデンティティ、土地ごとの文化に対してさまざまな問いを投げかける。新しいテクノロジーによって、コミュニケーションがグローバルに展開できるようになり、都市間でのイメージの交換も容易になった。都市のイメージが重なりあい、そこでの日々の営みが混ざりあったとき、一体どのようなことが起こるだろうか？

オンライン・エキシビション「Overworld」は、現実世界と相関関係にある架空の地形を新たに創り出すことで、テクノロジーや文化、アイデンティティ、現代のコミュニケーションが提起するさまざまな問いを巡る探究を行う。ゲーム用語である「オーバーワールド」は、ゲーム内の別のレベルや世界、異なるステージを繋ぐ空間を指す。ゲームのプレイヤーはこの物理的に非常に狭い空間を通ることで、非常に長い心理的距離を一気に移動することができる。デジタル・プラットフォームとしての本エキシビションは、訪問者の現在地や出身地、またそこからの物理的距離にかかわらず、この架空の地形を訪れることを可能にすることで、地理的な距離や民族・国家への偏見、言語の障壁というものを取り除こうと試みている。

「Overworld」は、慎重に設計された旅である。訪問者は、「都市の群島」の形をしたオンライン上の架空の領域に案内され、その場を自由に探検できる。本エキシビションに参加する建築家やアーティスト、デザイナー、イラストレーターの作品の集合体を通じて、

日本語版開幕
2020年12月11日

「Overworld」は日本とメキシコ両国の日々の営みの中に立ち現れる興味深い類似点や、数々の相違点に基づいた文化的対話へと、鑑賞者を誘う。

都市の群島

住まう島

Andrés Souto & Jonathan Hagard
イラストレーション: Riichiro Shinozaki

食べる島

Adriana David & Mei Nishiyama
イラストレーション: Karen Aguilar

移動する島

Erika Loana & Keith Spencer
イラストレーション: Mónica García

集う島

LANZA Atelier (Alessandro Arienzo & Isabel Martinez Abascal) & Reina Imagawa
イラストレーション: Alan Rodríguez

働く島

Zaickz Moz (Francisco Mosqueda) & No Architects (Hiroshi Nishiyama & Keiko Okudaira)
イラストレーション: Kyoko Nakamura

デジタル・エキシビション

このエキシビションでは、ストーリーテリングを都市と建築デザインのツールのひとつとして捉え、都市に暮らす人々の生きた経験に焦点をあてている。「Dwelling(住まう)」「Working(働く)」「Eating(食べる)」「Moving(移動する)」「Gathering(集う)」という都市や空間、ライフスタイルにまつわる5つのテーマをそれぞれ「島」にみたて、合わせて「都市の群島」と呼んでいる。バーチャル上の展示スペースである各島には、メキシコと

日本からそれぞれ1名ずつ建築家、芸術家、デザイナーが参加し、チームで展示内容を組み立てている。それぞれの島では視覚・聴覚だけでなく、鑑賞者自身がブラウザー上をマウス操作することでインタラクティブに展示作品が表示されたり、画面が切り替わったりする仕組みが施されており、空間的な広がりをもった架空の都市を体験できる展示デザインとなっている。	の外で作られた建築を研究することで、大衆文化から解釈され書き換えられる公式建築の用途とプロセスの変化を考察する。 muchomuchomucho.mx
VISIT www.overworld.mx	
参加者 建築家 アーティスト メキシコ	
アドリアーナ・ダビッド ADRIANA DAVID イベロ・アメリカナ大学建築・都市計画学科を卒業後、ギジェルモ・ゴンザレスと共に、建築事務所Tilicheを設立。2009年、マドリッドのInstituto Europeo Di Designから奨学金を授与され、セットデザインのマスターコースを終了。その後、持続可能な空間と技術の実験を行うDOMAデザインスタジオを、2011年に設立する。DOMAでは、実験用シードバンクのデザイン・構築を担当し、TOA設計事務所とのコラボレーションなどを行う。また、2012年には、メキシコシティのPapalote	エリカ・ロアナ ERIKA LOANA 建築オフィス「Taller de Arquitectura-Mauricio Rocha」でデビュー。博物館の展覧構成や制作を専門とし、Museo de la Ciudad de México博物館でミネルバ・クエバス、デミアン・フローレス、ペルラ・クラウゼなどのアーティストとコラボレーションを行った。「Terrain Vague」プロジェクトにて、Beca de Jóvenes Creadores del FONCA 2011 – 2012を受賞。モレロス州文化庁の建築および博物館プロジェクトのコーディネーターを務め、建築家・マウリシオ・ロシャ、イサック・ブロイド、ハビエル・サンチェスJSAなどとコラボレーションを行い、Jumex現代美術館で展示デザイナーやプロデューサーを務めた。また、若手建築家グループSomosmexasの一員として、展示会やインスタレーションをコーディネートし、独自の都市研究プロジェクトを実施。学際的な建築家として、大都市が経験する突然の変化から生じる空虚と放棄を考えることに興味がある。 somosmexa.tumblr.mx
Museo del Niño博物館で展覧の企画や構成、運営のプロジェクトアドバイザーを務める。2013年に、ダンス、演劇、建築など、さまざまな芸術分野を包括的に空間の探求に取り入れることを目的とした実験センターHojas de Té s.a. de c.v.を設立した。Beca de Jóvenes Creadores del FONCA 2013 – 2014を授与され、現在はハーバード大学修士課程でデザインの研究を行っている。	
doma.mx	
アンドレス・ソウト ANDRÉS SOUTO ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで修士号を取得。同校での研究プロジェクト「La Estética de la Esperanza」を通じて、実践の焦点の定義が形作られた。2017年、建築、芸術、教育、研究に焦点を当てた学際的なスタジオ「mUcHo estudio/taller」を設立。2017年より、イベロ・アメリカナ大学の建築学科の教授として、学術的対象としての「Arquitectura de la Cultura Popular」(@arqdelaculpop)を教えている。「mUcHo estudio/taller」では、建築リサーチを通して、建築、インテリアデザイン、造園、家具、イラスト、絵画、彫刻など幅広く手掛ける。公式文化のパラメーター	LANZA ATELIER (アレッサンドロ・アリエンツォとイザベル・マルティネス・アバスカル Alessandro Arienzo & Isabel Martinez Abascal) 建築事務所LANZA Atelierは、アレッサンドロ・アリエンツォとイザベル・マルティネス・アバスカルにより2015年に設立された。リスボントリエンナーレ2019のデビュー賞、2016年イベロアメリカンビエンナーレ賞、IITシカゴ2016年のミーズクラウンホール新進建築家賞にノミネートされ、2017年のArchitectural League Prize賞を受賞。最初の個展は、SFMOMAにて2018年に開催された。LANZAの設計する建築は、永遠に持続することができる現代空間の構築として捉えられている。使用のされ方や場所の変化に対応する柔軟さを担保しつつ、遺跡をデザインする感覚で設計を行う。 lanzaatelier.com サイクス・モス ZAICKZ MOZ メキシコ州出身。2012年にメキシコ国立自治大学建築学部に入學し、メキシコシティのさまざまなオフィスでインターンシップを行った後、写真の可能性に目覚める。

建築空間の描写を学ぶことに興味を持ち、2015年からOnnis Luqueにて、正式にカメラワークとポストプロダクションのプロセスに関わり始める。絵と図面を描くのをやめ、他の手段で都市と空間のデザインに関わる。建築写真家として、それまでは日常であると思っていたが深いドキュメンタリー性を秘めたものへ興味を向け、主題である「都市」というテーマに取り組んでいる。	るだけでなく、運営にも関わりたいと思い、2014年同社を退社。西千葉に密着して企画・研究を行う(株)マイキーに入社。「HELLO GARDEN」「西千葉工作室」の運営を行うかたわら、各地のまちづくりプロジェクトのアドバイザーとしても活動。
zaickzstudio.com	hellogarden.jp
日本 ジョナサン・ハガード JONATHAN HAGARD ジョナサン・ハガードはフランスのパリ郊外出身。インドネシア人の母を持つことから、幼少時より定期的にインドネシアを訪れる。レンヌでグラフィックやコミュニケーションデザインを学ぶかたわら、知人の勧めでフリーランスのアニメーターとしてのキャリアをスタート。ロンドンとジャカルタでウェブデザイナーとして働いた後、2014年に来日。アニメーション・スタジオに勤めながら自身の制作を続ける。1980年から2020年までの、変わり続けるジャカルタの下町風景を360度の定点観測で描いたVR作品〈PENGgantian (REPLACEMENTS)〉は制作に二年半を費やした後、2020年のヴェネチア国際映画祭のVR部門に正式出品された。	NO ARCHITECTS (西山広志、奥平桂子 Hiroshi Nishiyama & Keiko Okudaira) 西山広志、奥平桂子により共同主宰。2009年 神戸芸術工科大学大学院を共に修了し、nishiyamahiroshiokudairakeiko として活動を開始。2011年 大阪市此花区へ事務所移転に伴い NO ARCHITECTS 設立。現在、建築をベースに、設計やデザイン、インсталレーション、ワークショップ、会場構成、まちづくりなど活動は多岐にわたる。また、音楽家や美術家、写真家、劇作家、詩人、ダンサーなどとのコラボレーションや、展覧会の企画など領域をまたいだ活動も行っている。
jonathanhagard.com	noarchitects.jp
キース・スペンサー KEITH SPENCER 1982年、アメリカ・ニューメキシコ州生まれ。2009年に福島県の親善大使に任命され、アーティスト・ライター・教師として北米と日本で活躍。2016年にシカゴ美術館付属美術大学にて絵画・デッサンを学ぶ。2017年にはカナダ・バンクーバー市に引っ越し、エミリーカー美術大学の修士課程を修了。2016年、日米シカゴ協会奨学金を受賞。また、2019年にエミリーカー美術大学の契約教師として採用され、2020年には理科とアートの研究プロジェクト『Leaning Out of Windows』の参加者として、バンクーバーでグループ展示会に作品を出品する予定。現在、京都・河岸ホテルにてアーティスト・イン・レジデンスを行う。	今川玲奈 REINA IMAGAWA 1992年東京都生まれ、メキシコシティ在住。デザイナー、建築家、ファシリテーター。コロンビア大学都市研究学科卒業後、アートセンター大学大学院メディアデザイン学科卒業。様々なシステム(アート・デザイン・都市)に組み込まれた社会参加のモデルを見ながら、デザインが新たに果たせる役割を探している。現在はメキシコシティのクアウテモック市で「ガトー・ゴールド」というコミュニティセンターを運営しながら、デザイン・建築・コミュニティを中心に現地のプロジェクトに関わっている。ロサンゼルスなど、他の都市を拠点としたプロジェクトにも積極的に参加しており、国際的なネットワークを今後も広げていく予定。
西山芽衣 MEI NISHIYAMA 株式会社マイキー ディレクター / HELLO GARDEN・西千葉工作室 代表 1989年、群馬県生まれ。千葉大学建築学科卒業後、企画プロデュースを行う(株)北山創造研究所に入社。まちづくりなどに携わる中で、西千葉という街で「HELLO GARDEN」「西千葉工作室」を企画・立ち上げを行う。プロジェクトを企画す	reinaimagawa.com イラストレーター カレン・アギラル・マルティネス KAREN AGUILAR(MX) 1990年6月13日にメキシコシティ生まれ。メキシコ国立自治大学芸術デザイン学部(FAD-UNAM)において、デザインとビジュアルコミュニケーションの学位取得。第2回 ラテンアメリカイラストレーションアワードにて表彰。第13回及び第17回青少年向け出版物イラストレーターカタログ、第15回及び第17回全国招待ポスターコンテスト、Create Art for Paper Townsコ

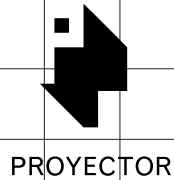
ンテスト(アメリカ)に選出。Let's Make Time Togetherコンテスト(日本)第2位。2015年よりフリーランスのデザイナー及びアナウンサーとして活躍(イラスト、グラフィックデザイン、アニメーション専門)。	リー / 2019) など。
モニカ・ガルシア MÓNICA GARCÍA (MX) イダルゴ州立自治大学建築学部卒業。2019年8月、イラストと建築を融合させたオルタナティブグラフィック表現による創作プロジェクトVISTA EN PLANTAを設立。メキシコ在住で、イラストのプロモーション、アーティストや建築会社とのコラボレーション、ワークショップの開催などを行っている。ポリテクニコ国立工科大学、メキシコ国立自治大学、メキシコ市自治大学や、ペルー・リマの大学UPCのデザイン学部などで、建築専攻の学生向けにレクチャーを行う。ArchDaily MéxicoやCoolhunterなどの雑誌で作品が発表されている。	主催 国際交流基金メキシコ日本文化センター キュレーター 日本 杉田真理子 Bridge to Kyoto キュレーター メキシコ Tania Tovar and Juan Carlos Espinosa Projector Webサイト開発 Jasper Stephenson Bridge to Kyoto
アラン・ロドリゲス ALAN RODRÍGUEZ (MX) ベラクルス州生まれ、イダルゴ州育ち。ニューヨークにあるTixinda、Grupo W、Vault49などのスタジオでグラフィックデザイナーおよびイラストレーターとして働く。現在はフリーランスのイラストレーターとして、Adobe、Budweiser、Nike、Baileys、Google、-Volkswagen、HP、Poweradeなどのブランドとコラボレーションを行っている。作品はラテンアメリカ民俗学とネイティブアメリカン芸術に触発されている。 篠崎理一郎 RIICHIRO SHINOZAKI (JP) 1989年生まれ。2013年鹿児島大学大学院理工学研究科 数理情報科学専攻修了。大学で数学を専攻中、ペン画によるドローイング作品の制作を開始。主に日常風景や町並み、人物・自然・人工物を断片的に描き、多角的な解釈を促す作品を制作し展開する。	グラフィックデザイン Estudio P パートナーシップ 独立行政法人国際交流基金 (The Japan Foundation) 国際交流基金 (The Japan Foundation) は1972年、総合的に国際文化交流を実施する日本で唯一の専門機関として設立され、「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」をミッションに世界で文化交流事業を行っている。国際交流基金メキシコ日本文化センターは1987年、在メキシコ日本大使館内に国際交流基金メキシコ事務所として開設し、08年から現名称で活動。メキシコにて、日本文化を介した国際交流を通じて両国の友好関係と相互理解の深化に寄与。また、日本語教育や日本研究の発展・普及のため、日本語教育機関、大学、研究機関への支援を行っている。
中村杏子 KYOKO NAKAMURA (JP) 1992年京都生まれのイラストレーター。カラフルでレトロだがどこか新しくもある世界観のイラストを描く。原画展示や創作イベントなどで活動中。デジタルはCLIP STUDIO、アナログは主にアクリルガッシュとペンで制作している。主な展示はおあげ神社皇月祭(岡山/チロップ/2017)、ハッカク狐商店街(大阪/シカク/2017)、空想懷狐(台湾/manga sick / 2018)、パーラー箱庭(大阪/カフェAnamune / 2019)、令和レトロルーム(京都/kara-Sギャラリー / 2019)、おあげ神社・イン・トーキョー(東京/TOKYO PiXELギャラ	fjmex.org FB @fjmex1 IG @jf_mex BRIDGE TO KYOTO 建築・都市・街づくりに関わる実践者のための「アーバニスト・イン・レジデンス」、および「都市」をテーマに幅広く活動を行うキュレーション・プラットフォーム。京都の古い一軒家を改修した建物で、建築や街づくりに関わるアーバニストや、都市や公共空間をテーマに活動を行うアーティストが滞在するほか、イベントやワークショップ、展示会などの開催も行う。

brdg.to
travelingcircusofurbanism.com
FB @bridgetokyoto

PROYECTOR

メキシコシティを拠点に活動するキュレーション・プラットフォーム。建築リサーチをテーマに、空間的課題に関する新しい戦略や、批判的・理論的・歴史的ツールを育成する取り組みを行う。若手リサーチャーとコラボレーションし、展示、出版、ワークショップ、パフォーマンス、トーク、セミナーなど、さまざまなフォーマットでリサーチ内容のアウトプットを行う。

proyector.mx.org
FB @proyectorarq
IG @proyectorarq



メディアパートナー

Arquine

arquine.com
FB @revista.arquine
IG @_arquine
TW @Arquine

コンタクト

国際交流基金メキシコ日本文化センター
Ileana Rojas
吉村周平

cultura@fjmex.org
+52 (55) 5254-8506